

# 月経以外の出血が心配な方へ



月経以外の出血（不正出血）には、子宮そのものの異常の場合とそうでない場合があります

## 機能性子宮出血という病名

子宮そのものに筋腫やがんなど明らかな病気はなく、子宮外妊娠や流産など妊娠の異常でもないのに子宮体部（子宮内膜）からの出血が続いている状態のことを機能性子宮出血といいます。

機能性子宮出血は、小児や老人を含むあらゆる年代の女性で見られますが、卵巣の働きが不安定な思春期と更年期で比較的多くみられます。子宮筋腫や子宮がんなど、子宮に異常があっても非常に小さい場合は通常の検査では明らかになりにくい場合もありますので、重要な病気を見落とさないためにも出血の原因がはっきりするまで、繰り返し検査が必要になる場合もあります。

## 思春期など若い女性の機能性子宮出血の特徴

はじめて月経がきて5年以内の若年女性にみられる不正子宮出血の大部分は卵巣の機能が不十分なための無排卵周期による出血であり、この年代では子宮筋腫やがんはほとんどありません。

他に子宮や膣の先天的な異常に伴う場合、膣内の異物や外傷が出血の原因になる場合、まれに予期していない妊娠（特に子宮外妊娠や流産など異常妊娠）が出血の原因になる場合などもありますので出血の経過や、出血にともなう他の症状などをよく確認することが重要です。

いわゆる「内診」は年代的に難しい場合もしばしばありますが、膣内の分泌物の検査や腹部超音波検査、MRI 検査などが必要なことがあります。また、貧血、ホルモンの状態、出血しやすくなる血液の病気を伴っていないかなどを確認するため、血液検査が必要になる場合もあります。

「無排卵周期」の診断は日々の基礎体温をみるのが重要です。ぜひ基礎体温を測定・記録してください。

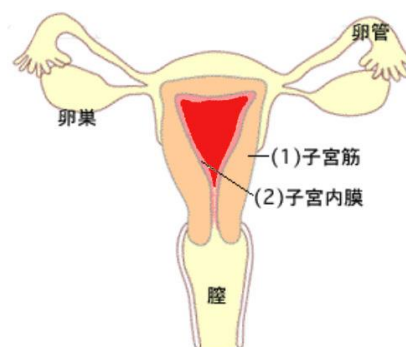


図1.子宮の構造 ((1)子宮筋と(2)子宮内膜)

## 更年期女性の機能性子宮出血の特徴

思春期と同様に、無排卵周期による出血、ときに異常妊娠による出血もありますが、年齢的に子宮筋腫や子宮がんにとともなう異常出血の可能性があるので、内診・経膣超音波・細胞診（子宮頸がん・体がん）などの検査をぜひお受けください。